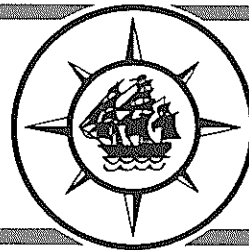


## Operation Raleigh News

Operation  
Raleigh

DENSO

No.25

昭和61年(1986)11月5日(休)  
毎月1回発行●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会  
〒104 東京都中央区築地1-7-10 築地オーミビル502号  
電話 東京(03)544-7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装機のご協力で作られたものです。

## 100人の外国青年が日本へ

## 知床・西表島・東海自然歩道で活動

1987年次の活動は、いよいよアジアが主舞台となりますが、その一部である日本フェイズは1987年4月5日から7月5日までの3ヵ月間にわたって北海道、本州、沖縄の3つのプログラムに分かれ、英国、米国など海外から約100人の参加青年を集めて展開されます。日本からの参加青年、英国本部スタッフ、日本委員会スタッフ、現地協力スタッフも加わり、「科学・奉仕・冒険」にチャレンジするものです。3プログラムの概要がこのほど発表されましたのでご紹介します。

## 早春の知床半島を完全縦走

## 北海道プログラム

## ■知床半島縦走

斜里町を出発して海別岳—遠音別岳—羅臼岳—知床岳—知床岬のコースを尾根伝いに縦走する。雪崩やヒグマに注意しなければならない。登山道が整備されていないため、早春の縦走は非常に困難とされる。とくに完全縦走はこれまでも例が少なく外国人による挑戦は初めてとなる。A班がチャレンジし、B班が途中の各所で食糧補給などサポートする。

## ■知床半島海岸線一周

斜里町から右回りで知床半島の海岸を一周する。道のないところも多い。途中、羅臼町教育委員会の指導で古代アイヌ遺跡の発掘調査を実施する。

## ■知床半島沢登り

斜里ベースキャンプを拠点にコタキ川、タキノ川、知床川などの沢登り、地形調査(正確な地図の作成)などを行なう。

## 大峰山修行や富士山麓調査

## 本州プログラム

## ■大峰山・高野山修行

山岳信仰の聖地のひとつ大峰山で修験道の行者と同じ修行ルート(岩登り、沢登りなど)を踏破する大峰

## 知床半島

## ●北海道プログラム

参加青年  
A班18名  
B班17名  
合計35名

## 東海自然歩道

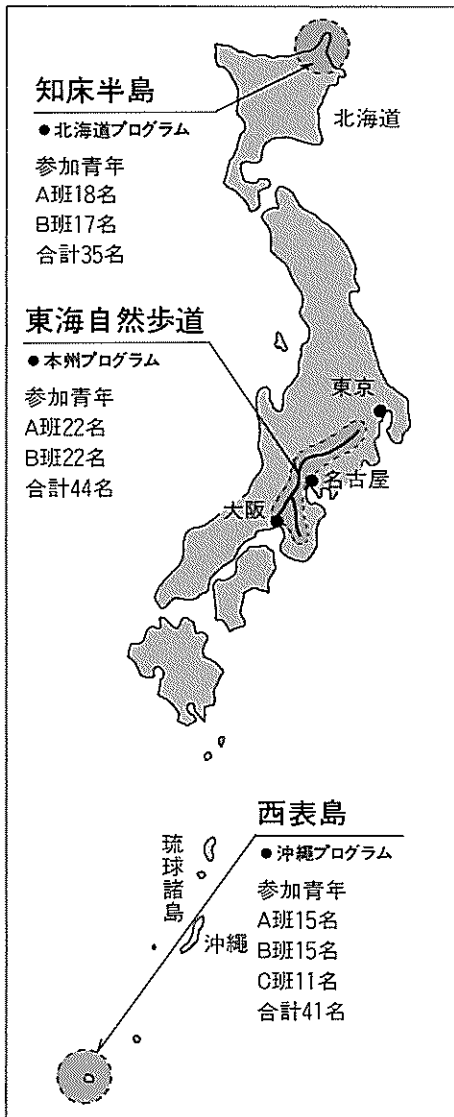
## ●本州プログラム

参加青年  
A班22名  
B班22名  
合計44名

## 西表島

## ●沖縄プログラム

参加青年  
A班15名  
B班15名  
C班11名  
合計41名



山奥駆け修行および熊野大社から熊野古道を経て高野山金剛峯寺に至り

座禅修業や仏教講話を聞く。また高野山大学学生との交流会も行なう。

## ■木曾川いかだ下り

木曾川今渡ダムから千本松原まで木曾材を使ったいかだをつくり、川下りする。

## ■三州足助屋敷・伝統工芸修業

愛知県足助町香積寺(禅寺)に宿泊し、自炊生活をしながら足助屋敷で日本の山村に伝わる木工細工、薬細工などの製作技術を学び、日本人の「技と心」にふれる。また禅や空手にも取り組む。

## ■富士山麓青木ヶ原総合調査

富士山麓・朝霧高原をベースキャンプとして、青木ヶ原の樹海、風穴などを調査。また、ムササビ、モグラなどの生態調査を実施する。

## サバニ船による黒潮漂流の旅

## 沖縄プログラム

## ■西表島動植物調査

西表島だけに生息しているイリオモテヤマネコ(特別天然記念物)の生態調査を琉球大学などの指導で実施。糞収集、定点観測、捕獲して発信機をつけ行動調査。またマングローブ樹林をゴムボートで調査。

■石垣市水産課の指導でシャコ貝をサンゴ礁に放流し、増殖を図る。

## ■西表島遺跡発掘

12世紀頃のものと思われる鍛冶屋造船所などの遺跡を琉球大学などの指導で発掘する。

## ■西表島洞窟探検

地元ケイビングクラブの協力で西表島の洞窟を調査し、破損箇所の修復や洞窟内の地図づくりを行なう。

## ■サバニ船航海(黒潮文化の旅)

沖縄の古代の丸木船サバニの操作を修得し、そのサバニ船で西表島から鹿児島をめざす黒潮漂流航海にチャレンジする。琉球大学の指導で航路、海流なども調査・測定する。

# 国際的な相互理解を深め、自己を高めよ

## T・ウォルトン日本フェイズ本部長、大いに語る



いよいよ来年4月に迫ったOR日本フェイズに先がけ、去る9月下旬から10月上旬にかけて、日本フェイズ本部長のトニー・ウォルトン氏が来日し、東京での記者会見をはじめ、本部が置かれる予定の名古屋の視察などを行いました。来日中のウォルトン氏に、日本フェイズやORについてインタビューすることができましたので、ご紹介します。

### 私たちの3つの希望

オペレーションローリーの意義をあなたはどのように考えますか？

私たちは、オペレーションローリーに参加するベンチャーに、次の3つのことを希望します。

1. 通常的环境や友達・家族から離れ、自分で考えて行動し、生活するなかで独立心を養い、自分に自信をつけてください。ORは、そんなみなさんの自己形成の助けになりたいのです。
2. 良い意味でも、悪い意味でも、もっと違う世界に目を向けてください。生活というのは、みなさんが普段、名古屋で、モンリオールで、シカゴで、ロンドンで経験し知っている環境だけではないことに気づいてほしいのです。
3. ORに参加し、地球上のさまざまな国の、自分とは異った生活様式・習慣・文化を持った人々と生活することで、相互に理解を深めてください。

### どんな時にも全力で

日本フェイズにどんな成果を期待していますか？

現場では、各自にさまざまな才能や能力が求められるでしょう。私は、160人の日本フェイズベンチャーとゼブ号ベンチャーだけでなく、スタッフにも、どんな時にも全力で取り組んでほしいと思います。そして日本で体験した、危険や興奮や友情などの気持ちを母国に持ち帰ってほしいと思います。そして、自分の知識を他人のために使い、チャレンジを皆でわかちあう、そんな経験を通して、人生とは、自分ひとりでは成

り立たないものだということを、学びとってほしいと思います。

### 日本の人々との交流を

日本フェイズの課題は何ですか？

大切なのは、冒険や日本の各団体への奉仕活動や科学的追求と同様に地元の人々やベンチャー同士の交



▲帆船ゼブ号で舵をとるウォルトン氏

流だと思います。日本では、これまでに完了した他のフェイズ以上に、「日本を経験すること」と、あらゆるレベルでの日本人との交流に重点を置くべきでしょう。

東京での記者会見では、どんな印象を受けましたか？

盛大でした。今後も記者の方々がORの主旨を理解され、実際に日本

フェイズ開始後、より一層注目してくださることを期待します。

### 日本の皆さん暖かな目を

日本フェイズ運営に当って日本の協力者、関係者に何を期待しますか？

ベンチャーたちを信頼し、彼らの責任のもとに、キャンプ地や実際の活動地での作業をできる限り任せ、暖かい目でみまもっていただきたいと思います。

協賛企業・日本電装についての感想を聞かせてください。

ORの『冒険』の主旨や、若者の持つ『可能性』に対し、多大な期待やご理解をいただき、大変感謝しています。日本電装のご協力なしには、ORは考えられないでしょう。

### 新たな人生の出発へ

来年4月からの日本フェイズに先立ち、それに関わる人々へのメッセージをお願いします。

みなさんは今、多くの人々が望んでいた、『遠くの国で、いろいろな体験(冒険・危険・友情・全く違った生活様式の現地の人々との交流など)をするチャンス』を手に入れました。それと同時に、プロジェクトを完了するための厳しい作業や、個々のリーダーシップの必要性が、みなさんひとりひとりに課せられたのです。ベースキャンプ建設などの日常作業の中で、最初にしなければならないのは、他人に従い自分に厳しくすることです。チャンスはすでに与えられたのだから皆で協力しあい、フェイズが終ってもその体験を大切にしたいと思っています。グループの中で不和が起こるようなことがあれば、自身ばかりか、家族や、スポンサーや、選んでくれた人の評価まで下げることになります。さらに選ばれなかった人たちのことを忘れてはなりません。人生の新たな経験の出発点にいるベンチャー全員の幸運を祈っています。

国際化時代といわれます。自国の歴史や固有文化を大切にするとともに、諸国の多様な考え方や生き方を容認しあい、その上、お互い地球社会人としての共存の哲理を共感しあうことができるのか。「21世紀はあるのか」という問いかけとして、いま、新世紀の主体となる現在の若者に、きびしく答えが求められています。

4年間にわたる青春の大航海、科学・奉仕・冒険の地球サイズのロマン、オペレーション・ローリーが多くの青年の手によって、すでに世界に着実な航跡をしるしていることはこの問いかけに対する、明るく前向きな解答の、たしかな証明のひとつではないでしょうか。

直接参加する各国数千の若者はもちろん、より多くの人々の心奥に、大いなる明日への希望のインパクトを与える、この壮大なプロジェクトは、いよいよ来年4～6月に日本を本舞台として展開されます。なんと素晴らしいことではありませんか。

南北3千キロをこえる私たちの花綵（はなづな）列島は、それ自体内

日本、この内なる  
テラ・インコグニタ  
未知大陸に  
世界の若者の  
チャレンジも



オペレーション・ローリー  
日本フェイズ 実行委員長  
寺下 英明

なる巨大な未知大陸（テラ・インコグニタ）といえなくもありません。

この列島を縦断する各所において自然探査に加え、諸国の若者はいかなる文化的、知的な冒険に遭遇するのでありましょうか。オペレーション・ローリーのもつ重要な側面でもある知性を研ぎすます、現代の「グランド・ツアー」を通じて、諸国と日本、お互いの若者同士が経験する強烈なカルチャー・ショックの中にこそ、新世紀の地球社会共存のため

の黄金の鍵が発見できるのではと信じています。

そのためにも、日本フェイズの諸プランには、日本文化理解の機会を盛りこみ、とくに各地各層のより多くの日本青年が、このオペレーション・ローリーに関心をもち、支援・参画しうるための工夫を十分に尽し、今後ひろく各国よりも注目、評価される実験プロジェクトにしたいと思えます。

実験的なプロジェクトとは、それ自体、未知への挑戦であり、冒険でありましょうか。多くの困難や新しい課題もつぎつぎに生じてくるかと思われま。マスコミをはじめ、公共・民間各層の「大人」の皆さん、温かい、ひろい目をもつ識者の皆さん、各地で支えていただくボランティアの皆さん、「ひろく ふかく ひとびとと」皆さま方すべての方からのご支援やご指導、ご鞭撻をお願いし、オペレーション・ローリー日本フェイズを担当するものを代表して、ご挨拶といたします。（筆者でたした・ひであき氏は日本青年国際交流機構・参与）

●オペレーション・ローリー日本フェイズ日程

		2月	3月	4月		5月				6月		7月			
セブ号	沖縄入港	2/15	3/21	3/31	4/4	4/7	グーフィン(オーストラリア)へ								
		名古屋入港	出港	大阪入港	出港										
1.北海道プログラム	A班	4/5	4/7	4/7	4/9	4/13-5/9	5/10-6/1	6/2-6/18	6/19	6/21-6/28	6/29	6/30	7/1-7/4	7/3	7/5
	B班	4/6	4/8	4/11	4/13-5/9	5/10-6/1	6/12-6/18	6/20	富士山登山道整備						
2.本州プログラム	A班	4/7-4/20		4/21-4/30	移	5/4-5/23	5/24-5/31	6/4-6/22	6/23-6/28	全体報告会					
	B班	4/7-4/13	4/14-5/3	5/4-5/25	5/26-6/3	青木ヶ原総合調査 ムササビ モグラ調査 フナ原生林集積かけ 富士山旧登山道登山はん		東京青年センター開催							
3.沖縄プログラム	A班	4/7	4/11	4/14-5/1	5/2-5/10	5/11-5/18	5/19-5/21	5/22-5/29	5/30-6/8	6/9-6/18	6/19	6/24	6/28	成田空港より帰国	
	B班	4/10	4/14	4/14-4/21	4/22-5/1	5/2-5/10	5/11-5/13	5/14-5/21	5/22-5/29	5/30-6/18	6/23	富士山登山道整備			
	C班	4/18-5/5		5/6-6/18				黒潮文化の旅 (サバニ船冒険航海)							

86年次参加青年オリエンテーション

# 丹沢強化合宿ルポ

## 丹沢での貴重な体験を 世界の辺境の地で生かして欲しい

ORJC丹沢強化合宿リーダー 増島達夫

10月17、18、19日の3日間神奈川県丹沢で、1986年次OR日本代表派遣青年30名の強化合宿が行なわれました。彼らに同行した増島氏のレポートと現地写真で、参加したベンチャー達の表情をお伝えします。

### 20メートルの滝 沢登りの好ルート

暗くなった山道にヘッドランプのあたりが点々と続いた。光の列は長さ50メートルにも達し、まるで、山を歩く修行者の列のようだ。

10月17日午後6時近く、神奈川県丹沢の山中で第3回オペレーション・ローリー日本代表派遣青年30名の強化合宿が行なわれた。丹沢は標高こそ1500メートルそこそこだが、山の深さや、海岸からもり上がった急な山々の山稜は山登りをする人にとっても困難な沢や尾根もある。これから向かう勘七沢周辺は塔ノ岳につき上げる沢すじから登ると高さ20メートルにも達する滝があり、沢登りの好ルートにもなっている。

### 10℃割る寒さに耐え 河原でビバーク訓練

丹沢の登山基地、大倉から勘七沢出合にある神奈川県登山訓練所まで約1時間30分の距離、ここまで一回の休みをいれ一気に歩く。これからオペレーション・ローリーに参加するベンチャーたちは衣類を入れたザックを背負い、足には登山用のブーツをはく者、歩きやすいジョギングシューズを着用する者などさまざま。途中、5時すぎにはもうあたりは暗くなった。訓練所より小さな尾根を越え後沢本谷の河原へ下りる。これからこの河原でビバーク訓練、つまり、非常事態を想定して、着のみ着のまま一晩すごそうというのである。10月の山中は朝の気温が10度を割る。普通この寒さではテ

ントの中で寝袋に入らないと眠ることはできない。こうした訓練は、どんな場所(ジャングル、砂漠、山岳地帯)へいって非常事態になっても一晩すごせる体験をしてもらおうということで行なわれる。



### 夕食は鳥の丸焼きなど 横になって朝を待つ

午後7時、たき火の火が河原のあちこちで夜空をこがし始めた。

夕食は鳥の丸焼きにじゃがいも、スープなど。アルミホイルに鳥肉をつつみ、火の中へ。じゃがいもも同じように火にくべ、20分ほどでワイルドな鳥肉のかたまりが火の中から出てきた。『半分こげたが肉がうまい



ぞ。じゃがいもの皮でも食っちゃえ』こんなベンチャーの声が各チームから聞こえる。夜はそれぞれ新聞紙を体に巻いたり、木の枝を

地面に敷いて、寝たというより横になってただひたすら朝のくるのを待ったといったほうがいだろう。

『寒かったわ。でも夜中に流れ星を3つも見たわ。』

夜明け前からは河原に『寒いからたき火を起こせ』の声が響く。

### 難しい沢登りに挑戦 ザイルワークの練習も

朝食をとってこれから勘七沢の沢登りに向かう。30名のベンチャーは全員、なんらかのスポーツをしているものの、こうした沢登りは初めての人がほとんどだ。沢登りは山登りの中でもむずかしい部類に入る。



大きな滝を越え、道なき道を自分でルートを探しながら沢すじにそって歩かなければならないからだ。滝登りはロッククライミングの要素も入り、ザイルワークの練習にもなる。ノ

今回は滝を直登した後に20メートル以上の垂壁からアップザイレン（ザイルを体に回して下ること）もする。

『おはよう。よく眠れた?』とベンチャーに聞くと、『眠れませんよ。寒くて。』という答えがほとんど。それでもこれから行く、オーストラリアやゼブ号に乗ることを考えれば一晩ぐらいのビバークで音を上げることはできない。

## ザイルで確保しながら 全員がF5を登りきる

ビバーク地より訓練所近くまで戻り、勘七沢本流に入る。全員にヘルメット、セルフストバンド（安全ベルト）が渡され、簡単なザイルの結び方を教わった。各自ザックをせおい、ヘルメットにセルフストバンド姿でA班から出発。F1（Fは滝のこと）からF4までは巻き道を行き、高さ25メートル近いF5をめざした。沢は大岩がころがり、こけのはえた岩は歩きづらい。何名かのベンチャーが、『ザブン』という音と共に沢の水の中で寒中水泳をした。廊下（両



側が切り立った所）状になった所は側壁をカニの横バイのように渡る。地上にスタンス（足場）のない時は水の中にスタンスをさがす。F5は

毎年事故が起きている丹沢でも有数の悪場。この滝をザイルで確保しながら直登する。岩登りの基本的な約束ごとの3点支持を教えA班からザイルでアンザイレン（ザイルを結ぶ）をして滝にとりついた。

## 木の枝とザイル使い 救急用のタンカづくり

高さ25メートルの滝はビルの6階の垂壁を登るのと同じ高度感がある。登りきったベンチャーの顔は真剣そのもの。滝の直登の次はこの横の垂壁を25メートルアップザイレンする。これを知っていればザイル一本でどんな高い所からでも降りることがで



きる技術、彼らにはぜひ覚えておいてほしい技術のひとつだ。ジッヘル用（確保用）のザイルをつけ、9ミリのザイル2本を体に巻き下る。

女性の中には恐怖のため足のふるえている人も何人かいたが全員無事下った。F5を越え、F6、F7と上部へ向かう。

## OR参加青年ら 日本電装を訪問

10月9日、10日の両日、今年3月の日本電装訪問の際に参加できなかった第1期生を中心にOR日本代表参加青年たちが、日本電装本社および西尾製作所を見学しました。9日は、同社の電装会館に宿泊し、救急法の講習を受けたり、稲生専務をはじめ関係者との懇親会に参加しました。翌10日、本社製品展示室などの見学に続いて、同社工場の一つ、西尾製作所を訪れたベンチャー達は、そのスケールの大きさに驚いていました。



塔ヶ岳へ続く稜線に出たのは午後3時すぎ。ここから尾根道を下り、途中、木の枝とザイルを使ってタンカを作る。暗くなりかけた山みちを横に入り、長さ3メートルの木の枝2本にそえ木をして、ザイルを編んで各班次々とタンカができ上がった。

午後7時から8時にかけて丹沢訓練所に各班タンカをかついで到着する。『終わった。あのアップザイレンが恐かった。』など各ベンチャーそれぞれに長い2日が終わる。

これから世界の辺境の地へ旅立つベンチャーたち、わずか2日の訓練だったが、この体験をオーストラリアで、インドネシアで生かして欲しい。



# 日本代表派遣青年のページ

## NZ組から第1報

10月からニュージーランドフェイズに参加しているベンチャー全員が、仲良く一枚の便せんに思い思いの感想を書いて送ってくれました。

こちらに来て2週間、私は、ORへ参加して人生に2度ない経験ができたことに感謝しています。私にとってこちらでの毎日は大変衝撃的で、日本や今までの生活からまったく切り離され、まるで赤ちゃんのようでした。これからは、ちょうど赤ちゃんが言葉を覚えていくように、何でも吸収し能動的な自分になりたいと思っています。(戸田美紀)

本格的な活動を前に僕たちは全員、背丈ほどあるシダの山はだを地図とコンパス片手に丹沢の小型版といったかんじの1泊2日のブッシュ・ウォーキングにでかけました。今こうして手紙を書いている横で、仲間が英語で話すのを聞いて、あらためてここがニュージーランドだと実感しています。(月村卓也)

昨日は一日中雨で、夜には多くのテントに浸水。そのために急拠荷物の移動と治水作業を行ないました。この模様は後日、写真を送ります。おかげで台所で寝た私は、寝不足です。(川北秀人)

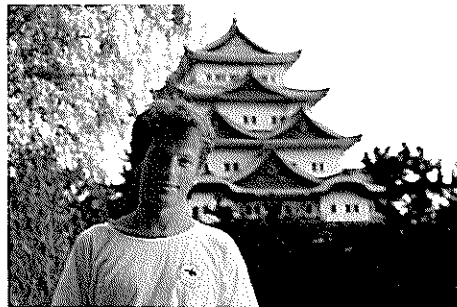
ここでは新しい発見の毎日です。英語には苦労していますが、3ヵ月

の間には、自分から行動をおこせるようにしたいと思います。明日からはダイビングが始まります。新しい活動のなかで、こんどはどんな発見にであえるか楽しみです。私のORでの目標は、悔いなく自分の力をだしきること。笑顔で頑張ります。

(河合佳代子)

生まれて初めての体験に不安を感じながらも、新しい自分の発見に期待しています。(松井洋一・田口陽子)

## 日本フェイズに助言 N.スチュアート氏来日



今までのOR参加経験から、日本フェイズに対するアドバイスのために、ナイジェル・スチュアート氏が来日しました。以下は帰国後届いた手紙の抜粋です。

写真を見ていると日本でのすばらしいひとときがよみがえってきます。日本電装の工場訪問は特に印象的でした。ORロンドン本部への報告書の提出も終え、すべて順調です。



## 悪天候のグレートバリア沖で ゼブ号活躍中

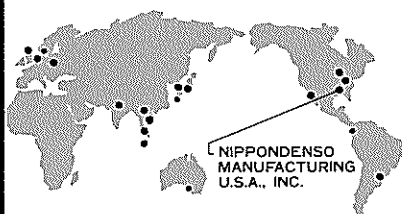
9月の末、日本のOR関係者がケアーンズを訪れ、ゼブ号の撮影をしました。そのほかにもゼブ号は、10月にはいってから地元のロータリークラブ主催のレセプションに出席したり、子供たちを航海に招待したりと、通常の勤務の他に、地域ののびととの交流に努めました。10月12日にケアーンズを離れたゼブ号ですが、悪天候のために、グレートバリアリーフを一周して、予定どおり16日に戻ることはできませんでした。

先週末、クルーたちは2つのグループに分かれて、夜、レイン島でカメの生態調査を行ないました。その48時間の間に、彼らは150以上のカメが海から現われて、砂に卵を産んでまた戻るところを見て大喜びでした。この後ゼブ号は、SWR号のクルーとの合同航海の前にパンドラ島にひきかえして、遺跡調査のプロジェクトを続け、28日にはケアーンズに戻る予定です。

## デンソーワールドワイドオペレーションNo13

## アメリカ

「以前は、  
日本嫌いだった…」



アメリカ人従業員たちがイキイキと働く「ニッポンデンソーマニュファクチャリングU.S.A.」。ここは今年操業を開始した日本電装にとって、アメリカ初の本格的な大規模生産拠点です。日本人とアメリカ人とが理解しあい「労働者」でなく「仲間」として交流できる職場は、現地でも注目的。今では多くの人が日本的な方法を賛え、日本の認識を変えた人もたくさんいるそうです。言葉や文化の違いをこえて、バトルクリークの人たちは張り切っています。  
NIPPONDENSO MANUFACTURING U.S.A., INC.  
所在地: One Denso Road, Battle Creek, Michigan 49015  
(売上高: 13,000万ドル 1990年フル操業時計画)  
従業員: 400人(86年末現在)



日本電装株式会社 宇448 刈谷市昭和町1-1 ☎0566-22-3311